

# 「中電は適切対応を」

## 原発3号機 申請不備で溝口知事

鳥根県の溝口善兵衛知事が7日の定例会見で、中国電力鳥根原発3号機（松江市鹿島町片匂）が原発の新規制基準に適合しているかの審査で原子力規制委員会が申請内容の不備を指摘したことに関し、中電に適切に対応するよう求めた。

規制委は4日であった第1回審査会合で、中電が申請書に自然災害対策の一部を記載していないことから不備を指摘。修正するまで審査できないとの見解を示した。

溝口知事は、5日に県防災部が中電から申請書の補正などの対応を速やかに検討するとの説明を受けたことを明らかにした上で、「中電にも規制委にも適切な対応をお願いする」と強調した。

県と松江市の立地自治体と、鳥取県、同原発から30キロ圏内の5市が容認した申

請の内容に不備があった点に関して「われわれは全ての情報を持っていない。全部のチェックはできない。技術的な問題は規制委でやるべきでそのために規制委がある」と述べた。

（高橋利明）

## 1号機で貯蔵の新燃料92体搬出

加工メーカーに

中国電力が7日、廃炉作業中の鳥根原発1号機（松江市鹿島町片匂）で貯蔵していた新燃料92体を加工メーカーに搬出し、譲渡したと発表した。搬送時の燃料の破損などはなく、放射性物質の放出はなかった。解体して保管した上で、必要に応じて2、3号機の燃料に加工し、利用する。

1号機の燃料プールで76体、新燃料貯蔵庫で16体を保管していた。グローバル・ニュークリア・フュエル

・ジャパン（神奈川県横須賀市）に44体、原子燃料工業（茨城県東海村）に48体を6日午前6時に陸送で搬出。グローバル社に同日午後10時50分ごろ、原子社には7日午前2時25分ごろ到着した。

7日現在で鳥根原発に残る核燃料は、使用前の新燃料1004体（2号機132体、3号機872体）、使用済み2678体（1号機722体、2号機1956体）。低レベル放射性廃棄物は、7月末現在でドラム缶（1本200リットル）3万4814本となっている。

（高橋利明）